

雲竜溪谷山行報告

【山行日】 2018年2月7(日) 晴れ
【集 合】 岩舟支所P AM 6:00
【費 用】 マイカー1台 : 1,700円
【メンバー】 CL:鈴木、鶴見夕、鶴見比、渡辺
【コースタイム】 栃木市運動公園 P6:00=林道ゲート P7:20/7:45~稲荷川展望台 8:35/8:45~洞門岩 9:00~雲竜溪谷入口 9:40~雲竜溪谷 10:00/10:50~雲竜溪谷入口 11:10~洞門岩 11:30/11:40~稲荷川展望台 12:10~林道ゲート P12:50/13:00=町の駅「鹿沼」14:00/14:40=栃木市運動公園 P15:40



山行アンケートで雲竜溪谷の希望があり、今年も計画した。土日は混雑し車を駐車するのが大変なので、毎年平日に計画することになっている。当初6名参加申し込みがあったが、2名がインフルエンザや同僚のインフルエンザで出勤を余儀なくされ参加を断念した。東北道から日光宇都宮道路を進み、日光ICで降り神橋の交差点を右折し稲荷川の手前を左に曲がる。少し先から先週降った雪が残っており、道路はアイスバーンで走りにくい。慎重に運転しゲート手前でUターンし、路肩の空きスペースに駐車する。今日は入山者が多く、ゲート前の駐車スペースはすでにいっぱいになっていた。

準備を整え道路に雪が多く凍っているの、最初からアイゼンを付けて歩くことにした。前日までにかなりの登山者が歩いたようで、道路に足跡がびっしりと付いている。天気は快晴で風も弱く青空に赤薙山が映え、徳ちゃんが「天気は今までで最高の天気じゃない」と嬉しそう。林道を緩やかに登るので話が弾み、W 鶴見さんはヤマレコの話で盛り上がっていた。30分歩いたところで暑くなり、休憩して衣服調整する。上衣を脱いでフリースで歩いて丁度よい。稲荷川展望台で休憩し、女峰山と赤薙山の展望を楽しみ記念写真を撮る。ここから洞門岩までは緩やかな林道歩きが続き、林道歩きに飽きたころ洞門岩の降り口に着く。右に進み河原に降りて行き、川床を歩くようになる。堰堤脇を通り、渡渉してから左岸の山道を登って行く。一旦下ってから渡渉し、右岸の急な山道を登って行くと広い緩やかな道に出て少し登ると雲竜溪谷の入口に出る。



階段脇の急坂を下り再び川床歩くようになり、しっかりしたトレースを辿り渡渉すると最初の氷壁が現れる。初めてのT見さんは青く透き通った自然の芸術に「ウワ～凄い！綺麗！」と感動していた。



さらにツララの横を通り抜け、渡渉を繰り返すと雲竜溪谷の核心部に着く。巨大な氷柱と巨大なツララが織りなす神秘の世界が待っていた。ここ最近では温暖化と少雨で氷柱の規模が小さくなり、見応えが無くなったが初めての2人は感動したようだ。自然が育んだ芸術を堪能しながらおやつとお茶をいただく。2人は写真を撮りに氷柱の下まで行き、お互いに写真を撮り合っていた。氷の芸術を楽しんだら右の岩を登って行き、岩壁の細い道を巻くように進むと奥の雲竜瀑に出る。

50mほどの巨大な氷瀑が現れ、アイスクライミングを楽しんでいた。氷瀑の反対側で休憩し、どら焼きを食べながらアイスクライミングを見物する。トップの男性は氷瀑の上でビレーし、下から女性が登って行くが中々登れない。徳ちゃんが「頑張れ～」と大声で応援するが何の反応も無い。しばらく見ていたが半分までも登れないので、見るのを諦め下山する。来た道に戻ると、核心部の氷柱の場所も沢山の人で賑わっていた。さらに次から次へ登って来る人がいて、雲竜溪谷入口では20名位の団体が降りて来て待たされる。さらに上に上がると団体がアイゼンを付けて準備をしていた。



我々は混雑する前に見学でき、氷柱も午前中は陽が射して一番美しい状態を堪能できた。復路は来た道に戻り、洞門岩の広場で昼食の予定だったが「お腹が空いてない」との事で下山して蕎麦を食べることにした。お話ししながら林道を下り、車まで無事到着し靴を履き替える。町の駅「かぬま」で蕎麦を食べることにし、鹿沼市に向かう。町の駅の大越路蕎麦で天ぷらそばやけんちゃん蕎麦を食べ、隣の農産物直売所でお土産を買う。正嗣の餃子を買いたいと言うので、帰り道に寄ったがあいにく休みで残念だった。皆さん雲竜溪谷は大満足のようで、「来年も是非計画してください」とお願いされた。今回行けなかった2人の為にも、来年また計画しなければと思った。

